

学習内容報告書 フォーマット

学校名	広島県福山市立鞆の浦学園
授業者	兼崎美玖, 山脇大樹, 彌久末泰子, 宮原美也子, 馬屋原宏美, 佐藤緑, 横上美香

1. 単元計画

実施した活動内容に基づきご記入ください。

1-1. 単元名

TOMO の磯わくわく発見プロジェクト

1-2. 学年

1～9年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

自立活動, 生活単元学習（知的学級のみ）

1-4. 単元の概要

1 海に親しむ(5時間)
〈海洋資源〉海洋生物, 貝殻・シーグラス
〈課題発見〉磯遊びを行い, 海に親しみを持つ。
海の生きものをはじめとする海の豊かな資源に触れる。
〈情報活用・情報発信〉
磯遊びで見つけたものをタブレットや書籍を活用して調べる。
調べたことをイラストに書く。
見つけたものを写真で展示する。

2 海を知る(25時間)
〈海洋資源〉海洋生物, 海藻, 海洋ごみ
〈課題発見〉磯探検を行い, 海の恵みや海にまつわる課題を知る。
海洋生物等を調べることで, 海への関心を高める。
わかめの植え付け・刈り取りを行い, わかめの成長や生育の変化を体感する。
海洋ごみを拾い, 分類したり比較したりする。
〈情報活用・情報発信〉
タブレットや書籍を使って名前や特徴などを調べる。
漁業協同組合の人から情報収集する。
海洋ごみの分類ごとの展示・啓発。

3 海を利用しながら海を守る(20時間)
〈海洋資源〉海洋生物, 貝殻・シーグラス, 海洋ごみ, 海水
〈課題発見〉海洋生物の飼育。

海洋資源を利用した作品づくり。
 海洋ごみの拾得や水質調査を行い、実態を把握し保全活動をする。
 海の素材を生かしたラーメン商品開発。
 パートナー校の児童生徒と交流を行い、未来の海、海と人の共生を考える。

〈情報活用・情報発信〉

海洋資源をどのように活用していくか調べて協議する。
 パートナー校と交流するため、タブレットを使用して調べたり活動内容をまとめたりする。
 オンラインでディスカッションする。
 ラーメン商品開発のため企業に向けてオンラインでプレゼンテーションする。
 海洋生物の飼育公開。
 作品の展示・販売・案内ポスターの掲示。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

本学園は瀬戸内海に隣接した鞆の浦に位置し、豊富な地域素材や人材に恵まれている。身近な海を素材とした学習を設定し、海に親しみをもつことからはじめ、海の実態、課題を把握し、地域の人と関わったり、国内、海外の児童生徒と交流したりしながら、「海を守る」ためにできることを、ともに考えることを通して、グローバルな課題を解決していくための主体的な態度を養う。「海の豊かさを守る」ための活動を実施し、発信することで、ふるさとの海と持続可能なまちづくりのために、地域に貢献する人材育成をねらいとする。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

- ・課題発見・解決能力：さまざまな体験活動を通して、ふるさとの海に関心を持ち、課題解決に向けて探究する
- ・情報活用能力・コミュニケーション能力：地域の人や国内・海外のパートナー校の児童生徒と、体験活動やICTを活用して交流することで、他者と協働する力、コミュニケーション能力を高める
- ・郷土愛：海の豊かさを守る学習を通して、ふるさとの海や地域の良さに気付き、愛着をもつ

1-7. 単元の展開（全50時間）

時数	学習活動・主な内容	教師の指導 / 主な評価 外部連携 / 使用教材等
5	1 海に親しむ ①磯探検「海の豊かさを守る」ための課題をみつける 3回計画→中止 後期生徒のみ1回実施 海ゴミの回収、シーグラス・貝殻の収集 ②海洋生物の飼育	<ul style="list-style-type: none"> ・磯に行くための準備をする めあての確認、準備物とルールを決める ・ふるさとの海に興味をもたせる ・磯探検の目的を明らかにする ・実施のための安全計画(交通安全、活動中の安全) ・海の生き物を飼育するための課題に気付かせる ・「鞆の浦ミニミニ水族館」(北校舎1階廊下)

25	<p>2 海を知る</p> <p>①地元鮮魚屋さんによる魚の説明 魚の大きさや種類・名称について知る</p> <p>②海洋教育出前授業 魚を観察して、魚を正確に描くことができる 魚を見て描くことで魚の体の特徴や働きを理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「鮮魚衣笠さん」に季節ごとの実物の魚について具体的に説明してもらう ・黒潮実感センター 神田優センター長
	<p>③アマノフーズ出前授業 食品の乾燥技術について学ぶ</p> <p>④「ぶつつ」のふりかけ作り 食品乾燥機で乾燥させ、小さくした後にミルサーで細かくする</p> <p>⑤田中食品出前授業 ふりかけの製造を学び、郷土料理「ぶつつ」の活用について考える</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・味噌汁をはじめとする食品の乾燥を、魚やわかめなどと結びつけて考えさせる ・食品会社「アサヒグループ・アマノフーズ」 ・郷土料理「ぶつつ」を使用して、前後の出前授業の学習内容と関連付ける ・「ぶつつ」を使った商品化に向けて調整 生徒・保護者アンケートの集約(北校舎1階通路) ・食品会社「田中食品」
	<p>⑥わかめの幼芽植え付け・収穫体験 鞆の浦わかめの取組や思いを聞く わかめの養殖体験で、海の豊かさを守る具体的な方法を考える 収穫したわかめを顕微鏡で観察する</p> <p>⑦わかめの活用 洗浄、乾燥を体験し、ラーメン商品開発プロジェクトにつなげる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の目的を明らかにする ・実施のための安全計画(交通安全, 活動中の安全) ・過去3年間のわかめの状態を見せて、課題意識をもたせる(写真, 画用紙模型) ・実際のわかめの成長から、海の状況を感じとらせる ・漁業協同組合の人の話(今年度, 魚がわかめを食べたことについて)を聞いて、課題意識につなげる。 ・漁業協同組合 組合長ほか ・商品化に向けて調整 食品会社「クラタ食品」
20	<p>3 海を利用しながら海を守る</p> <p>①歳時記づくり 主に季節の魚についてまとめる 出前授業で冊子(書籍)の紙面レイアウトについて学ぶ どのように広めるか、まとめ方・展示の方法などを考える</p> <p>②海洋資源(海の塩, 貝殻, シーグラス)を使用した物づくり バスボム, せっけん, スライム, レジン小物</p> <p>③ICT(リモート)を使用した交流 ・広島県教育支援センター「SCHOOL “S”」と交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動のねらいは「海の豊かさを守る」ためであることを確認する ・鞆の浦の海を知ってもらい関心を寄せてもらうためにできることを考えさせる ・デザイナー上野リサさん ・(校舎1階オープンスペース・北校舎1階通路) ・海洋資源(貝殻, シーグラス)を使った小物の作り方を教える ・広島県教育支援センター「SCHOOL “S”」(東広島)

<ul style="list-style-type: none"> ・常石ともに学園と交流 <p>④俳句づくり 季節の魚や海に関連した俳句を考える</p> <p>⑤活動紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期校内研修会…スライム作り, 海洋教育課題決め ・後期交流会…活動内容紹介 ・後期校内研修会…海の紙せっけん作り ・ベトナム交流 <ul style="list-style-type: none"> 前期…海のキーホルダーのプレゼント 後期…活動内容と質問をまとめた冊子と小物のプレゼント ・公開研究会…歳時記の制作 <ul style="list-style-type: none"> ・福山市なかよし作品展…歳時記・俳句・魚の絵展示 <ul style="list-style-type: none"> ・鞆ふれあいまつり…俳句・魚の絵展示 ・とも・潮待ち軽トラ朝市「海のワクワクショップ」 <ul style="list-style-type: none"> 1回目…バスボム, せっけん, スライムの販売 2回目…わかめのつかみ取り, せっけんの販売 ・「日本遺産の日」記念シンポジウム 日本遺産PRブースで販売…鞆の浦せっけん(郵送) 	<p>市)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びの共有(バスボム, せっけん作りの提案)と各校の活動報告 ・他校児童生徒 他校の先生 ・俳句について職員の zoom 研修 ・学習した授業や活動と関連させて, 季節に合わせた俳句を作成させる <ul style="list-style-type: none"> ・本校教職員 <ul style="list-style-type: none"> ・本校教職員 ・ベトナム視察団, 福山市教育委員会, 福山市立大学 <ul style="list-style-type: none"> ・他校の先生, 保護者 <ul style="list-style-type: none"> ・他校児童生徒, 他校の先生, 地域(福山市図書館1階ロビー) <ul style="list-style-type: none"> ・地域, 観光客(鞆公民館) ・地域, 観光客(沼名隈神社前参道) ・主催「サンモルト」 <ul style="list-style-type: none"> ・漁業協同組合 組合長ほか <ul style="list-style-type: none"> ・鞆町町並み保存拠点施設(鞆てらす) 担当者
---	--

2. 学習活動の実際

実施した単元中のキーとなるような時間（導入の時間・主となる活動の時間・まとめの時間など）の学習内容をご記入ください。また、複数の時間についてご記入いただける場合には、この項目をコピーして複数記入していただいても構いません。

2-1. 単元における位置づけ




単元 時間中の 時間目

※例：単元 10 時間中の 2 時間目 / 単元 15 時間中の 4, 5 時間目

2-2. 本時の目標

- ・魚を観察して、魚を正確に描くことができる。
- ・魚を見て描くことで、魚の体の特徴や働きを理解する。

2-3. 本時の展開

主な学習活動 / 反応	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
<ul style="list-style-type: none"> ・先生の活動紹介 ・目標提示 ・イメージした魚の絵を画用紙に描く ・見本の魚の紹介  ・魚の書き方を聞く 画用紙の中央に線を引く 魚の長さを測る 画用紙にアウトラインを描いて、各部分を詳しく描く 色鉛筆で着色する  ・魚の体の特徴や働きの説明  	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介と黒潮実感センターの活動について、パワーポイントで説明する(柏島の砂・漂着物) ・画用紙に自由に魚の絵を描かせる ・準備した魚をひとつずつ説明する 地元で呼ばれている名前と正式名称 背びれを開いてみたり, 口を開けたりして見せる ・2枚目の画用紙を配付する 魚の見方, 描くポイントを伝える 定規で中央に線を引く 魚の縦と横の長さを測る 道具: デバイダーを使用 机間巡視で魚の細かい部分の説明をする 着色(色鉛筆) ・魚の体についてパワーポイントで説明する 海の生き物の不思議 魚の歯, あご

3. 今回の活動の自己評価

魚の観察や描き方を具体的に指導していただくことで、魚に対する見方を教わることができた。魚について身近にイメージできる児童生徒も、イラストにしてみると不完全な部分があることに気づき、2枚目に描いた迫力ある魚に満足することができた。児童生徒が先生に直接質問して、正確な回答をいただけたことが良かった。2時間の授業設定で、特別支援学級児童生徒全員が熱心に活動したり、話を聞いたりする内容となった。魚をより身近に感じたり、海の生物に興味を示したりすることができた。

4. 今後の課題

活動を通して得た知識や技術を、「歳時記」づくりに応用することができた。この取組を校内、地域等にものように広めていくが課題である。取組の紹介をきっかけに、「海の豊かさを守る」ための活動につなげていく。海の専門家から直接話を聞く機会をもつことができた。授業時間等の問題で、フィールドワークなどの実施ができなかったが、体験的活動を効果的に取り入れることで、目的が達成できると感じた。

5. 本学習内容報告書活用にあたっての留意点

※実施した單元ごとに作成してください。

※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。

※基本レイアウト

フォント：MS 明朝、10.5ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm

※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。

例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1

※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。